

兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural
Museum of
Archaeology



Vol.19

2017 Spring-Summer



金粒珠玉象嵌宝相華紋六稜鏡(唐)
きんりゅうじゆぎやうがまはぎょうむつろくしほくめいめい(てい)

平成29年春夏号

- 「古代鏡展示館」の開館が4月14日に決定 2
- ◆特別展「兵庫の古鏡」..... 4
- ◆交流展「台湾パイワン族の文化」 6
- ◆学芸員が選ぶイチオシ館藏品「鬲を模倣した備前焼花生け」..... 6
- ◆東日本大震災復興支援職員現地報告「兵庫県と東北」 7

千石コレクションを常時公開、開館記念事業も実施！ 「古代鏡展示館」の開館が4月14日(金)に決定！



古代中国鏡を中心とした千石コレクションの全貌が、いよいよ公開されます。平成26年にご寄贈いただき、先行展示で少しずつご覧頂いてきましたが、ようやく「古代鏡展示館」でいつでも100面以上の古代鏡をご覧いただけるようになります。

場所は加西市にある兵庫県立フラワーセンター内。考古博物館の加西分館として、平成27年10月に着工、展示準備も整い開館の運びとなりました。

建物の外観は、正倉院の校倉造りをイメージさせるもので、皆さんに宝庫の中をのぞき見るような感覚を味わっていただきます。

展示ケースの高さをできるだけ低くし、鏡を間近に観察できるように工夫しました。

本来、鏡は身近なところで使われるもので、鏡の裏面に表現された紋様も、20～30cmの距離で鑑賞するのが一番。この距離であれば、主な紋様だけでなく、それを引き立てるために施された細かな技巧まで見えてきます。これまではケースのガラス面と展示品が離れていたため、近づけず見づかったという問題点がありましたが、今回鏡の展示に特化したケースで解消しました。

さらに、紋様を美しく引き立てるのがライティング。検討を重ね、作品の表情を引き出すための品質の検討や角度の調整をしました。お花や人物、霊獣などの紋様が浮かび上がり、思わず鏡の世界に心を奪われてしまいます。



五獣紋鏡(秦～前漢／紀元前3～2世紀)



展示室



高精細画像検索

また、高精細画像検索では、タッチパネルを使い、検索や写真画像の拡大のほか、X線透過画像や立体画像も合わせてご覧いただけます。鏡の観察ポイントの説明や、肉眼では見えにくい鏡の個性を明らかにします。

開館記念企画展は「百花繚乱 いま、古の美が咲き誇る!」と題し、千石コレクションの特徴でもある宝飾鏡ほうしきょうを展示します。螺鈿らでん、平脱へいだつ、象嵌ぞうがん、金粒といった技巧を凝らした唐代の逸品には、金や銀、宝石、ヤコウガイを使って、花やつる草、人物が表現されています。宝飾鏡を30面近くも陳列するのは、この期間だけです。

また、開館記念事業として、6月17日(土)に加西市健康福祉会館でフォーラムを開催。これまで3年間に

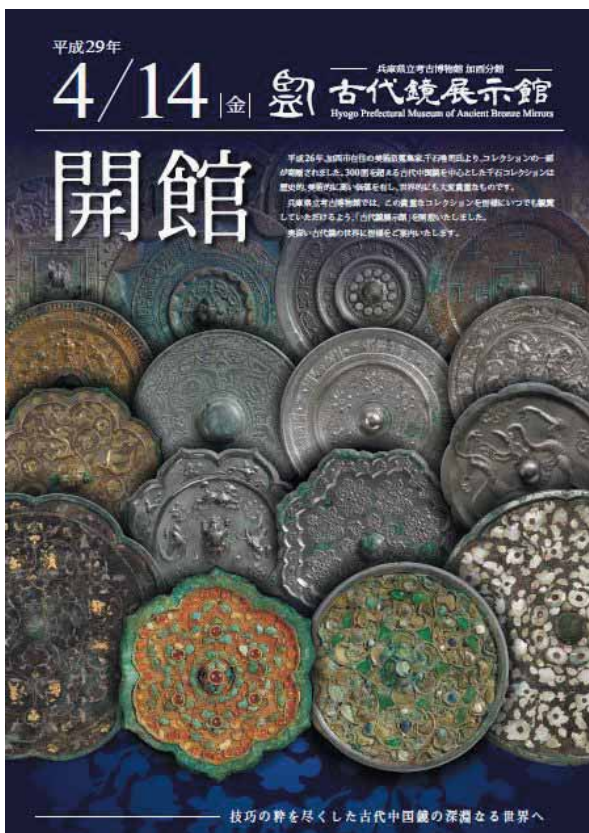
わたって千石コレクションを調査・研究してきた「千石コレクション調査研究委員会」の7名の先生方にご登壇いただき、調査研究の現状と、コレクションのもつ可能性について語り合ってください。

開館日のフラワーセンターは、チューリップまつりの真っ最中。是非、お出かけいただき、古代鏡とお花の美の共演をお楽しみ下さい。

(分館開設準備室 中村 弘)



宝飾鏡(貼銀鍍金双獣双鳳紋八稜鏡)の3D画像



《古代鏡展示館のデータ》

- 名 称 古代鏡展示館
- 場 所 加西市豊倉町飯森1282-1
兵庫県立フラワーセンター内
TEL.0790-47-2212
- 休 館 日 毎週水曜(祝日の場合は翌平日)
フラワーセンターがイベントで開園する春季と秋季は無休
- 開館時間 9:00~17:00(入園は16:00まで)
- 観 覧 料 100円(高校生以下無料)
別途フラワーセンター入園料(一般500円)が必要
- 展示面積 163.2㎡
- 展示構成 ガイダンス展示、コレクション展示、企画展示、高精細画像検索、銅鏡ふれあいゾーン

開館10周年記念
加西分館開館記念

特別展

「兵庫の古鏡」

平成29年4月8日(土)～6月18日(日)

兵庫県立考古博物館では平成29年度に開館10周年を迎え、4月14日には加西分館「古代鏡展示館」がオープンします。これを記念して、当館が所蔵する弥生時代から江戸時代の古鏡約50面と、他機関が所蔵する兵庫県内で出土した各時代の代表的な鏡を展示します。あわせて鏡と一緒に出土した土器や金属製品・玉類なども紹介します。

これにより大陸から伝来した鏡が、日本人にどのように受け入れられ、日本文化の中に溶け込み、変容していったかをたどります。

Ⅰ 鏡と日本人

鏡は顔や姿を映すための道具で、銅と錫の铸造品です。映すだけであれば、平坦な鏡面があれば良いのですが、鏡背に鑄出された文様や鏡の形態は時代によって異なっています。

兵庫県内では弥生時代から江戸時代にかけて、様々な鏡が発掘調査で出土しています。化粧道具としてだけでなく、出土状況から多様な使われ方が考えられます。これらの鏡を時代ごとに見ていきます。

Ⅱ 弥生時代から古墳時代前期

大陸からもたらされた鏡は、北部九州では墓に副葬されるのが通例ですが、県内では西条52号墓(加古川市)などを除き、稀です。打ち割って、分割研磨・穿孔した破鏡が集落から見つかっています。さらに九州など日本で模倣して作った小型の鏡も見つかっています。

古墳時代初期には鏡を多数面副葬する古墳が出現します。30面以上を副葬する古墳もありますが、兵庫県では西求女塚古墳(神戸市灘区)の12面が最多です。この中の三角縁神獣鏡には、同範鏡が知られ、椿井大塚山古墳(京都府)や黒塚古墳(奈良県)などから出土しており、初期大和政権との関係を考える上で興味深いものと言えます。



豊岡市鳥居遺跡出土 破鏡

神戸市灘区西求塚古墳出土三角縁神獣鏡(重要文化財)
(神戸市教育委員会蔵・写真提供)

Ⅲ 古墳時代中期から古墳時代後期

古墳時代中期になると、前期のように多数の鏡を副葬する例は見られず、1面ないし数面の副葬が一般的になり、鏡の大きさも、比較的小さな鏡が主流になります。茶すり山古墳(朝来市)第1主体部からは3面の鏡が多数の鉄製武器や玉類とともに出土しています。後期になると鏡を副葬する古墳はさらに稀になります。

中期から後期にかけて宝地山2号墳(篠山市)のような鈴鏡が、日本独自の鏡として作りだされました。本来鏡が持つ「映る」あるいは「輝く」という属性に加えて「鳴る」が付け加えられた鏡です。鈴鏡を腰に提げた巫女埴輪は塚廻3号墳(群馬県)などから見つかっており、神事に際して光と音により鏡の霊力が増したと考えられます。

朝来市茶すり山古墳出土鏡(重要文化財)
(朝来市教育委員会蔵)



篠山市宝地山2号墳出土鈴鏡〔兵庫県指定文化財〕
(篠山市教育委員会蔵・写真提供)

Ⅳ 古代・中世

飛鳥・奈良時代に入ると華やかな文様をつけた隋唐鏡が仏教文化と共にもたらされます。兵庫県では出土例が少なく、集落から海獣葡萄鏡を模倣した小型鏡や素文鏡が出土しています。但馬国府関連遺跡の袴狭遺跡(豊岡市)では中国製の八稜鏡が出土しています。

平安時代中期に成立する「和鏡」は、花鳥を意匠とし、上下のある構図の文様となり出土数も増加します。

平安時代後期になると、末法思想に伴い経塚が造られ、經典とともに和鏡が埋納されます。兵庫県の経塚には、東播系須恵器の甕と鉢を外容器としているものが比較的多く見られます。さらに平安時代末から中世になると和鏡は墓に副葬されます。白磁や青白磁など輸入磁器と一緒に副葬されている多利・前田遺跡(丹波市)の墓は有力者の墓と言えるでしょう。

16世紀代には、二重界圈を有する小型、中型鏡に加え柄鏡が登場します。江戸時代になると、柄鏡の柄は次第に太く短くなります。また、小型で方形の携帯用懐中手鏡も見られ、化粧道具としての需要が高まるとともに、庶民にも普及します。

(学芸課 篠宮 正)



丹波市多利・前田遺跡中世墓出土鏡・相伴遺物
(兵庫県指定文化財)

《講演会・イベント情報》

【講演会】

会 場：当館講堂

時 間：13:30～15:00

(12:50開場、混雑時は開場時間を早める場合があります)

定 員：120名

参加費：無料

4月8日(土)

「鏡にこめられた想い～古代・中世の銅鏡～」

久保智康(叡山学院教授)

5月13日(土)

「古墳時代の鏡と兵庫県出土鏡」

森下章司(大手前大学総合文化学部教授)

5月20日(土)

「弥生時代における銅鏡の伝来と東方への広がり」

森岡秀人(奈良県立橿原考古学研究所共同研究員)

5月27日(土)

「三次元計測技術を用いた文化財記録と応用」

岡本篤志(大手前大学史学研究所研究員)

【展示解説】

日 時：会期中の日曜日 13:30～14:00

※要観覧券

【体験イベント】

①チャレンジ銅鏡づくり

内 容：石膏型に文様を彫り、溶けた減磨合金を流し込んで研磨するオリジナルの銅鏡づくりを体験。

日 時：平成29年6月3日(土) 10:00～15:30

定 員：16名 ※対象小学4年生以上

要予約 4月4日(火)～受付開始

☎079-437-5564(学習支援課直通)

参加費：800円

②スタンプ・ボン!紙で古代鏡づくり

日 時：平成29年6月10日(土)

13:30～15:00

定 員：30名

参加費：無料(要観覧券)

【紙芝居】

オリジナル紙芝居「鏡の世界は大騒動」ほか

日 時：会期中の土・日曜日 13:00～13:20

場 所：メインホール

参加費：無料

開館10周年記念 台湾新北市立十三行博物館交流展

台湾パイワン族の文化 —太陽王子の神珠—

平成29年7月22日(土)～9月3日(日)

台湾の新北市立十三行博物館との国際交流展です。本館では初めての国際交流展となります。同国では十六の原住民が暮らしていますが、その中でも今回は南部に暮らすパイワン族を紹介します。十三行博物館ではこのパイワン族の生活品やお祭りの道具などをたくさん所蔵しており、今回、同館企画の展示を実施できる運びとなりました。

台湾南部の山岳地帯に暮らすパイワン族は山と森で暮らす人々です。彼らの家は石板屋と呼ばれる石で葺いた屋根を持つのが特徴です。家の中には祖霊の像が祭られ、頭目(村長)は陰陽壺・首飾・刀の3種の宝を持ち、太陽の神などを刺繍した華麗な衣装を身につけて暮らしています。展示では彼らの彫刻や民族衣装、生活用品などから、生活に根ざした豊かな知恵や色彩豊かな

暮らしぶりを紹介します。

このほか、土器づくりのジグソーパズルやぬり絵などのハンズオンを楽しみながら、台湾の人々の豊かな暮らしや文化に触れることができます。

(学芸課 山上雅弘)



琉璃珠(ガラス玉)を掛けた陶壺

学芸員が選ぶイチオシ館蔵品

甬^{れき}を模倣した備前焼花生け

(佐用郡佐用町平福御殿屋敷跡出土 安土桃山時代)

甬^{れき}とは、古代中国において用いられた中空構造の三足を持った鍋です。中に水を入れ、上に甗^{こしき}を載せて火にかけ、栗や米などを蒸したとされています。

新石器時代(紀元前7000年～紀元前1500年頃)の黄河流域でまず土器の甬が作られました。やがて、殷・周代になると青銅製のものが作られ、祭祀に用いられるようになり、表面に獣面文などを施した芸術性の高い作品も現れます。

漢代以降、その生産は次第に衰えますが、宋代になると、おりからの金石文ブームにのってその復古品が多く作られるようになります。

一方、備前焼は室町時代を通じて、壺^{かめ}・甕^{すりばち}、播鉢が西日本を中心に全国的に流通します。やがて、茶の湯が盛んになる戦国時代以降は、水差、建水、盤、花生けなどの茶陶の生産が盛んになります。

現在、甬を模倣した備前焼の花生けは他に知られていませんが、中国の古代青銅器を模倣し

た花器として特異な作品です。

おそらく、中国の古代青銅器に造詣の深い発注者の求めに応じて作られたオーダーメイドの製品と考えられます。

(学芸課 岡田章一)



備前焼花生け

東日本大震災復興支援職員現地報告

兵庫県と東北 ～復興への思いをツナグ～

復興調査に従事して感じた3つの課題

私が家族とともに仙台に赴任したのは、関西では経験のない吹雪に桜が咲く、とても寒い日でした。この1年間は多賀城市のは場整備事業に伴う発掘調査への支援協力に従事しています。一面田んぼが広がる中で、今は奥羽山脈から吹き寄せる寒風に耐えながら調査をしています。

この発掘調査は、県職員6名(うち派遣3名)、市職員3名(うち派遣2名)の9名で取り組んでいます。派遣された職員の派遣元は、東は東京から西は岡山まで広がり、所属についても自治体職員や財団職員などさまざまです。今回はこの1年間に復興調査に携わる職員に問われていると感じた、3つの課題について述べます。

出身母体がばらばらの職員で調査を行っていると、「派遣地や派遣元では、これが通常のやり方だ」という考えは通用しません。「これまでの経験や知識で構築したノウハウを“この時期に、この場所で”のやり方にいかに変換し、各人が共通認識としていくか」が1つめの課題です。

また、発掘調査を効率的に終え、本体事業に速やかに移行できるように調査を実施していますが、報告書作成のための出土品整理作業も重要です。派遣期間にはそれぞれ長短がありますが、派遣された職員が出土品整理作業に携わることはほぼありません。

調査対象面積が広大であるため9人がバラバラの地点で実施した発掘調査の成果を「次年度以後のとりまとめ作業にどうやって引き継ぐのか」が2つめの課題です。

地元職員・派遣職員が頑張ることや、復興調査用のマニュアルを作ることで解決できることはありますが、前段階として、①どういう計画で何をどこまでやるのかと、②その計画と現実をいかにすり合わせるか、というコーディネーターの存在が不可欠だと感じています。

阪神・淡路大震災の経験が活かされていない、という言葉もちらほら耳にします。しかし、空前の大災害の中で、すぐにできたことは限られたと思います。それでも「成功と失敗を繰り返しながら、ゆるやかに前には進んでいる」と感じています。

どの地域に住んでいても災害のリスクを免れることはありません。次は自分たちが派遣職員を受け入れる側になるかもしれません。その時に「2つの大震災の経験を共有し、経験知にできるか」が、派遣元に帰った後、我々に問われている3つめの課題だと考えています。

私の任期は残り少なくなりましたが、この3つの課題を少しでも解決できるようにがんばります。

(宮城県教育委員会派遣 永恵裕和)



遺構の実測状況



現地説明会の様子

イベント

予約不要

6/10±	スタンプ・ボン！紙で古代鏡づくり スタンプを押して自分だけの古代鏡をつくります 時間 13:30～15:00 受付 時間中随時 定員 30名 料金 要観覧券 対象 どなたでも
8/5±	考古博 DE 夏まつり 夏休みのスペシャルイベントです。“こうこはく”に集まれ！ 時間 12:30～15:30 料金 無料 対象 どなたでも
8/11 金祝	古代の家を作ってあそぼう ダンボールなどで堅穴住居風の家を作ります。 中に入って遊ぶこともできます。 時間 13:30～15:00 受付 13:00～ 定員 20組 料金 無料 対象 小学生以下（保護者同伴）
学芸員によるミニ講座 考古博の常設展示の一つを詳しく紹介します 6/25日・7/2日・7/9日・7/16日・9/10日 9/17日・9/24日・10/1日 13:30～14:00 [要観覧券]	



講演会

13:30～15:00(12:50 開場) 当館講堂
※混雑時は開場時間を早める場合があります。定員 120名[無料]

春の特別展

企画展

最前線考古学研究所

4/8±	鏡にこめられた想い～古代・中世の銅鏡～ 久保智康(叡山学院 教授)
5/13±	古墳時代の鏡と兵庫県出土鏡 森下章司(大手前大学 教授)
5/20±	弥生時代における銅鏡の伝来と東方への広がり 森岡秀人(奈良県立橿原考古学研究所 共同研究員)
5/27±	三次元計測技術を用いた文化財記録と応用 岡本篤志(大手前大学史学研究所 研究員)
8/12±	台湾の孤島にヤミ族をたずねて 和田晴吾(当館館長)
7/8±	ひょうご五国のやきもの 松岡千寿(当館学芸員)
8/19±	駅家の屋根瓦 池田征弘((公財)兵庫県まちづくり技術センター 副課長)
9/23±	装飾古墳と高松塚古墳 和田晴吾(当館館長)

- 「特別展展示解説」は特別展開催期間中の日曜日に実施。13:30～14:00※要観覧券
- 「石棺に入ろう」は毎週土曜日、「古代船に乗ろう」は毎週日曜日に実施。14:30～15:30
- イベントについての詳細情報は当館ホームページやチラシでご確認ください。

体験講座

要予約

TEL 079-437-5564 【学習支援課】

6/3±	チャレンジ！銅鏡づくり 時間 10:00～15:30 定員 16名 料金 800円 対象 小4～ 受付 4/4(火)～
6/4日	赤米をつくろう！～田植え～ 時間 9:30～12:00 定員 50名 料金 200円 対象 5歳～ 受付 4/4(火)～ 締切 5/21(日)
6/10±	遺跡ウォーク 加西分館と周辺の遺跡を訪ねて 大人向け 時間 10:30～15:30 定員 20名 料金 500円 対象 どなたでも 受付 4/11(火)～ 締切 5/27(土)
7/22±	昔の土器をつくってみよう！ 夏休み 時間 10:00～15:30 定員 20名 料金 800円 対象 小4～ 受付 5/23(火)～
7/23日	からむしでコースターをつくろう！ 夏休み 時間 10:00～15:30 定員 12名 料金 500円 対象 小4～ 受付 5/23(火)～
7/29±	ハニワくんをつくろう！ 午前・午後 夏休み 時間 午前・10:00～12:00 午後・13:30～15:30 定員 各回20名 料金 400円 対象 5歳～小3 受付 5/30(火)～
7/30日	強力パワー！子持勾玉づくり 夏休み 時間 10:00～15:30 定員 10名 料金 500円 対象 小4～ 受付 5/30(火)～
8/6日	キラリ！ガラス勾玉づくり 夏休み 時間 10:00～15:30 定員 16名 料金 1,000円 対象 小学生～ 受付 6/6(火)～
8/19±	好きな色の勾玉をつくろう！ 午前・午後 夏休み 時間 午前・10:00～12:00 午後・13:30～15:30 定員 各回20名 料金 400円 対象 5歳～小3 受付 6/20(火)～
8/20日	組紐のプレスレット（ミサンガ）をつくろう！ 夏休み 時間 10:00～12:00 定員 10名 料金 300円 対象 小4～ 受付 6/20(火)～
8/26±	兵庫県の石で勾玉をつくろう！ 夏休み 時間 10:00～12:00 定員 15名 料金 600円 対象 小4～ 受付 6/27(火)～
8/27日	金属で勾玉をつくろう！ 夏休み 時間 10:00～15:30 定員 16名 料金 500円 対象 小学生～ 受付 6/27(火)～
9/10日	赤米をつくろう！～観察会&石包丁づくり～ 時間 10:00～15:30 定員 20名 料金 300円 対象 小4～ 受付 7/11(火)～
9/24日	古代の技に学ぶかごづくり～箕の菓子器づくり～ 大人向け 時間 10:00～15:30 定員 10名 料金 500円 対象 高校生～ 受付 7/25(火)～

兵庫県立考古博物館NEWS vol.19 2017 Spring-Summer

発行年月日 平成 29 年 3 月 15 日

編集・発行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中 1-1-1
TEL.079-437-5589
FAX.079-437-5599
http://www.hyogo-koukohaku.jp/

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分
山陽電車播磨町駅から喜瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西I.C.から約3km
- 駐車場／町営大中遺跡公園駐車場・野添であい公園駐車場をご利用ください（普通車1回200円）
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）



触れる・体感する、考古学のワンダーランド
兵庫県立考古博物館



blog

